

構成材料の証明について

2019年2月13日
(一財) 建材試験センター

試験体製作及び管理では、申請者にて調達頂いた試験体の構成材料が申請図書に記載いただいた試験体の仕様通りであることを証明資料により確認する必要があります。証明方法については、下記をご参照ください。

○証明資料における確認項目

1) 材料の名称、材質、樹種等、規格番号(合金番号等)	・ 試験体の名称、材質、樹種等が確認できる資料 ・ 規格品 (JIS、JAS) で、製品規格中に分類 (合金番号等) がある場合は、その分類が確認できる資料 ※ただし、製品表示または目視にて試験体監視員が容易に判別できた場合は省略可能です。
2) 材料の寸法、密度	・ 試験体の寸法、密度が確認できる資料 ※ただし、試験体監視員が実測できた場合は省略可能です。
3) 材料の質量、塗布量	・ 試験体の質量、塗布量が確認できる資料 ・ 溶媒等を考慮した実際の塗布量と固形物として残る量の関係についての説明資料(試験体製作場所で施工する場合(塗装、接着剤等)) ※ただし、試験体監視員が実測できた場合は省略可能です。
4) 材料の組成	・ 製造者が発行した材料の組成を示す資料 ※試験体の組成が申請図書に記載された試験体の組成に該当することを示す内容が必要です。

※なお、試験体にウレタン、イソシアヌレートを使用した場合は、日本ウレタン工業協会が制定した原料情報連絡書 (B 票) をご提出ください。

○証明資料の様式について

証明資料には、2019年4月1日以降の申請受付分より、社印の他に品質管理責任者(またはそれに代わる者)を含む2名以上の確認印が必要です。

証明資料(製造証明書)の記載例は、次ページをご参照ください。

○証明資料の提出方法

ご提出いただく証明資料は、申請図書のどの材料についての証明資料であるか容易に判別できるように、資料右上に申請図書の項目番号、項目名を記載してください。(次ページ参照)

証明資料は、事前に性能評定課の案件担当者に送るか、試験体製作当日に試験体監視員にお渡しください。資料はコピーまたはPDFデータで構いません。ただし、試験体監視員にお渡しの場合は、コピーのみの対応となります。

書類右上に、申請図書の項目名を記入（手書き可）してください。
複数ページの場合、（ページ数／全ページ）を記入してください。

(1)外壁パネル (1/3)

〇〇〇会社 御中

書類の作成日としてください。

〇〇〇〇年 〇月〇日

宛先は、次のようになります。
申請者が製造した製品：建材試験センター宛
申請者が調達した製品：申請者宛

証明内容に応じて書き分けてください。
例：製造証明書、品質証明書、出荷証明書

〇〇〇株式会社 社印

〇〇〇事業部

品質管理責任者	確認者
印	印

製造証明書

試験体について、下記の通り、相違ないことを証明いたします。

2019年4月1日以降の試験体製作及び管理受付分より、「社印」「品質管理責任者（又はそれに代わる者）の印」及び「確認者の印」が必要です。

1. 外壁パネル

製品名：〇〇〇

材質：〇〇繊維混入〇〇板

寸法：厚さ〇mm×幅〇mm×長さ〇mm

断面積欠損率：〇.〇%

密度：〇kg/m³

組成（質量%）：

〇〇〇カルシウム	80
〇〇セメント	10
無機繊維（シリカ、〇〇〇等）	5
有機繊維（パルプ、〇〇〇等）	3
添加剤（分散剤、〇〇〇等）	2

材質、寸法、組成等、申請図書の試験体欄に記載された内容が間違いないことを証明した内容としてください。

組成表記は、申請図書に記載した試験体欄の値との整合が必要になります。

表面塗装：〇〇〇系樹脂塗料 固形量〇〇〇g/m²（有機質固形量〇〇〇g/m²）

製造場所：〇〇〇工場

2. 補強材

1つの様式の中に複数の構成材料について記載いただいて構いません。

材料名：メタルラス、製造者：〇〇株式会社〇〇工場

材質：冷間圧延鋼板（JIS G 3141）

寸法：厚さ〇〇mm、質量：〇〇〇g/m²

主構成材料について、他社から購入した場合には、納品書、ミルシート等の書類も添付してください。

3. 塗装（両面塗装）

材料名：〇〇〇系樹脂（△△△ペイント社製 商品名〇〇〇、商品番号〇〇〇）

塗布量：100g/m²、固形分率：60% 有機質分率30%により

固形量：60g/m²、有機質固形量 30g/m²となる。

証明事項の該当箇所が分かりにくい場合は、該当箇所に印（下線、丸印等）をつけてください。

以上